法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

SCTノート(5)

藤原，真一 / 伊藤，隆一 / 菅野，陽子 / 河村，裕之 / 田名網，尚 / 松尾，江菜 / 小林，和久 / 三枝，将史 / 保阪，玲子 / 鰺坂，登志雄 / 伊藤，ひろみ

(出版者 / Publisher)
法政大学小金井論集編集委員会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学小金井論集 / 法政大学小金井論集
(巻 / Volume)
5
(開始ページ / Start Page)
71
(終了ページ / End Page)
106
(発行年 / Year)
2008-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00004324

Hosei University Repository

ＳＣＴノート（5）

Suppliments on Seiken-shiki SCT（5）

*1伊藤隆一
*2菅野陽子　*3河村裕之
*4田名網尚　*5松尾江奈
*6小林和久　*7三枝将史
*8藤原真一　*9保阪玲子
*10鰺坂登志雄　*11伊藤ひろみ

（1）精研式 SCT とは

精研式 SCT（文章完成法テスト：sentence completion test）（佐野・槇田、1960）における符号評価の実際を説明した『SCT ノート（1）』（伊藤ら、2004）、企業の人事・キャリア開発現場、医療（クリニック）現場における SCT の活用例について述べた『SCT ノート（2）』（伊藤ら、2005）、大学学生相談室におけるケースの発達的検討、高等学校における生徒支援と生徒理解、児童相談所における心理判定の一技法としての SCT の活用について述べた『SCT ノート（3）』（伊藤ら、2006）、企業採用現場における不安定なケースの判定とそれへの対応、発達障害者の就労支援への SCT の活用、病院実習評価と SCT 評価との関連性についての統計的分析について述べた『SCT ノート（4）』（伊藤ら、2007）に引き続き、「スクールカウンセラーによる学校現場における支援困難な不登校中学生への SCT 活用例」「採用現場における適性検査のあるべき姿と SCT の役割」について紹介していきたい。

精研式 SCT そのものについては、本稿末尾の「（4）文献」にあるテスト用紙、手引、事例集を、また、SCT を用いたパーソナリティ把握技法のトレーニングについては、槇田パーソナリティ研究所のホームページ（URL：http://homepage1.nifty.com/makita-personality/）、慶應義塾大学産業研究所のホームページ、（URL：http://www.sanken.keio.ac.jp/introduction/ja/activity/education/index.html）

Hosei University Repository

を参照願いたい。

精研式SCTは、1960年に、佐野勝男・槇田仁両博士（ともに、慶応義塾大学名誉教授）が開発・刊行した投影法心理テストである。「子供の頃、私は」といった文章の比較的短い書き出し（刺激文）を提示し、その後に、思いつくことを自由に記述させる（反応文）という形式のものである（図1参照）。刺激文は全部で60（Part Ⅰ、Part Ⅱそれぞれ各30）あり、パーソナリティ全体を広くカバーするように工夫されている。そして、それらに対する反応文から、個人のトータル・パーソナリティを幅広く把握できるようになっている。精研式SCTは、教育、医療、司法、福祉、企業、心理現場など、さまざまな領域で広く活用されている。

精研式SCTは他の心理テストにはない特徴をいくつか持っている。

Part Ⅰ

1. 子供の頃、私は _____

_____

2. 私はよく人から _____

_____

3. 家の暮らし _____

_____

4. 私の失敗 _____

_____

5. 家の人は私を _____

_____

図1．精研式SCTテスト用紙（成人用）の一部

1）その第一は、トータル・パーソナリティの把握をめざしている点である。大部分のテストは、個人のある1つの側面に焦点を当てて作られている。たとえば、知能検査は、知能に焦点を当てて、知能指数（IQ）という客観的な指標を算出できるように作られている。しかし、これを用いて性格や指向を把握することは困難である。一方、精研式SCTは、「環境・生活史」「身体」「知的能力」「性格・心の安定性」「指向・意欲・興味・関心・態度・人生観・生活態度」とい

Hosei University Repository

ったパーソナリティの諸側面全体を把握できるように工夫されている。

2）第二の特徴はスコアリング（得点化）や数量的分析をあまり重視しない点である。パーソナリティの把握にあたっては、パーソナリティの諸側面を広くカバーするように配列されているSCTの刺激文に触発された反応として記された、日常われわれが使っている「生の言葉」そのものを重視する。しかも個々の反応文単独ではなく、反応文相互を重層的に重ね合わせながら了解していくことによって、生きたパーソナリティの全体像を柔らかく再現し、記述する「内容分析・現象学的把握」という手法を用いる。これは、あらかじめ用意された質問項目に返答を求める半構成的面接とほぼ同じ状況を、紙上で行っていくことにほかならない。SCTが半構成的紙上面接と言われるゆえんである。こうした技法は、熟練した講師の下で経験を積むことによって初めて修得可能な方法であるが、このようにして身につけたパーソナリティ把握の能力は、カウンセリングや面接、OJTなど、あらゆる場面で他者を理解する際に役立つものになる。

ただし、精研式SCTでも、実際的な利便性とある程度の客観性を保証するために、8つの「符号評価」を取り入れている。「ener.」「diff.」「type」「G」「H」「N」「secu.」「意欲」である。

3）第三の特徴は実施が容易なことである。施行は個人でも集団でも可能で、また、施行・評価ともに比較的短時間のうちに済ませることができる。

本稿では、こうした特徴を持つ心理テスト、精研式SCTがさまざまな分野・領域でどのような活用のされ方をしているのか、その一端を述べていくことにする。

なお、本稿（2）の原文は菅野陽子の論文、（3）の原文は河村裕之の論文である。また、後者は、2006年12月に慶應義塾大学産業研究所SCTセミナーで行った講演を、追加・修正のうえ、まとめたものである。しかし、全体の構成・監修・校閲は著者全員で行っている。

本稿執筆にあたり、事例やデータの提供にご協力・ご許諾いただいた関係各位に、改めて心よりの謝意を表す。また、事例提供者やその環境のプライバシー保護のために、データの有効性や信頼性を損なわない範囲で、割愛や改変を行ったことを付記する。

また、これ以降は、精研式SCTを単にSCTと略記する。

Hosei University Repository

(2) 学校現場におけるSCTの活用：支援困難な不登校中学生へのSCT活用例[*12]

①はじめに

SCTノート（3）（伊藤ら、2006）では、首都圏にある公立高等学校での、教諭によるSCTを用いた取り組みが紹介されているが、本稿では臨床心理士であり、学校現場のスクールカウンセラー（以下SCと記す）としての立場から、SCT活用の工夫と留意点について述べることにする。

具体的には、「不登校や不登校傾向の中学生」にSCTを活用している報告を行う。また、事例として発達障害と疑われながら各関係相談機関につなげても「支援困難なケース」について、本人をどのように理解し、その後の援助の具体的方策を考案していったかというプロセスを紹介し、SCTの果たした役割を検討してみたい。

②学校現場の臨床心理士と心理テスト（心理検査）

まず、臨床心理士とは、「1）臨床心理検査、2）臨床心理面接・心理療法、3）臨床心理地域援助、および4）それらの調査·研究といった、おもに4つの仕事に従事する人々のことをいう。教育の場では、小·中·高等学校のSCや教育センター（都道府県や政令都市に設けられている）の相談員などを担っている」（日本臨床心理士会（編）、2003）。公立学校のSCは、平成7年度から文部省（現在の文部科学省）の研究委託事業として配置されるようになり、平成12年度までに、中学校を中心に全国で2,250校に配置された。さらに都道府県区市などの独自事業として配置されているところも増え、平成13年から文部科学省の正規事業として5ヵ年計画により、平成18年度までには小規模を除く全国約1万校の公立中学校に配置された。

そして、SCの仕事は、上記の臨床心理士の仕事からいうと、2）と3）を重ねあわせたものといえる。具体的には、1. 児童・生徒のカウンセリング、2. 保護者からの相談やカウンセリング、3. 教職員へのコンサルテーション、4. 関係機関との連携（社会資源の情報提供）などがある。1）は、特に含まれず、むしろ心理検査は歓迎されていない。さらに認めていない地域もあると聞く。しかしながら、心理検査を大きなひとつの武器とする臨床心理士であれば、当該児

Hosei University Repository

童・生徒の問題を見立てて、その人物の全体像を総合理解する際に、いくつかの心理検査を併用できれば、と感じることは多々あるはずである。

心理検査は大きく分けて知能検査と性格検査の2つに分けられる。いずれにしても、学校教育場面ではプライバシーの保護をはじめとするデリケートな問題が数多くあり、必要な場合には、医療や福祉などの関係相談機関に個々でつなげればよいという考え方があると思う。確かに、児童·生徒の情報は家族、担任はじめ学校関係者から集めることができる。たとえ、本人に会えない場合（SCに相談するのを拒否するなど）でも、その児童·生徒の見立てをし、問題解決に向けての支援方法を考えるであろう。そうであればなお、著者などは「せめてSCTだけでも入手することはできないであろうか」との考えに及ぶ。そのくらい、SCTは本人理解の助けになる道具であると実感しているからである。

同様のことを、松原達哉（松原、2004）は、「ただ、学校カウンセラーの中には、大学時代心理テストの学習をしなかったために、心理テストにどんな種類があり、どのように活用をするか知らないために、用いない人もかなりいる。そういうカウンセラーは、医学でいう新しい診断方法（例，CTスキャンとかMRI診断等）や新薬を知らなかったために使用しないで、治る病気も治療できずに終わらせるようなものである」と、学校教育場面での心理テストの有効性を主張している。

欧米諸国では、SCは細分化されているいくつかの専門性をあわせもっていることが多く、米国のようなスクールサイコロジストという立場は確立されている。しかしながらわが国では、「心理検査を依頼されて評価する」という明文は見たことがない。私たち自身も軽々に心理検査の類を施行することは避ける傾向にある。

③学校現場でのSCT施行の留意点と工夫

現在、著者は首都圏に近いA市の公立中学校において、SC（年間1日8時間35週の勤務）をしているが、心理検査は「不登校および不登校傾向」の生徒本人が来談して来た時に限って、必要に応じて、施行することを試みている。その心理検査とは投影法であるが、生徒とラポールをつけるための描画法（バウムテストや風景構成法など）と、生徒の自己観や環境を把握するためのSCTである。学校場面に適するように、退行促進要素の少ないソフトな刺激のものにしている。

Hosei University Repository

SC制度の導入が、大きく「不登校」や「いじめ」対策からであったように、著者の受ける相談内容も、生徒、保護者および教職員の3者から共通して「長期欠席」という項目が圧倒的に多い（相談内容は9つに分類されているが、合計数の約26％）。もちろん、「不登校」とひとくくりしても、それには心因性のもの、いじめや暴力行為等に起因するものや、怠学・非行による不登校など、その状況と課題は様々である。さらに不登校の要因や背景も多様化・複雑化している。

その多様な彼らに対して、共通の刺激をもって得られる反応から、縦（一個人の生活史の重層的理解）と横（当事者間の共通性と差異）を照合することは、彼らの「登校しづらさ」への理解を著者に与えてくれている（表1参照）。また、その結果、すなわち1枚の描画や1部のSCTを見ることは「一聞は一見にしかず」で、生徒自身、場合によっては保護者や担任など学校関係者に結果を見せつつ、フィードバックすることで、本人理解がすすむことが多い。高校生ともなると、自分の性格特徴を知りたいという本人から、直接SCに「性格検査」をやってほしいというオーダーがしばしばあるようだ。

しかしながら、中学生は思春期（青年期の前半期）にあたり、まだまだ自己同一性の確立はなされているとはいえず、著者は中学生に、「あなたの性格はこういうタイプです」というふうな自己理解の目的でSCTを使用することには抵抗感がある。それよりも、「今、あなたは学校へ行きづらいという現状に困っていますね。その解決をするために、私はもっとあなたのことが知りたいのです。SCTというあなた自身のことについて書くものがあるので、よかったらやってみませんか？その後で、書いたもらったものをいっしょに見ていき、そのことについて一緒に考えていきましょうね」と、本人が困っていることを援助する目的を伝え、あくまで本人の意思を確認してからSCTを施行する。初めは「困っていません」という生徒もいるが、互いのコミュニケーションが深まると「こういう面では困っている」と認めることができる。

また、「これで何がわかりますか？」と懐疑的な態度をとる生徒もいる。それはしごく当然のことである。「これは、書く前には説明できないものなので、後でいっしょに見ながら説明をするというやり方でよいですか？」とこちらが伝えて、拒否されたことはない。SCTを開始して、書きたくない内容については「書かなくて構わない」し、「いつでも途中でやめてよい」と保証をしておくことが肝心である。先にも述べたが、SCTには退行促進要素は少ない（特に精研式

Hosei University Repository

SCTでは刺激の強い言葉や表現は避けている）が、逆に、気軽に書いてから「どういう風に評価されるか」という不安を持たせることも十分考えられ、「家族」や「死」について書くことで動揺する者もいるであろう。そのフォローが必要なこともあるかもしれない。

また、どの検査者においても、所属の機関の内規やしばりを受けている。「学校文化」とか「学校風土」ということがいわれることもある。著者は、まず担任に了解を得ている。本人の了承に加えて、15歳以下の中学生ということを常に考慮しておくべきであろう。本人と保護者の面接があれば一番よいが、かなわない時には保護者には「ご本人理解のために、少し絵を描いていただいたり、文章を書いていただきますが、構いませんか？」と了解を得る方がよい。その結果は、本人の了解を得た上で、担任や保護者に見てもらう。さらには、専門職としての所属職能団体があれば、その倫理綱領を頭に入れておく必要があると考える。

著者は校内の教育相談会議のメンバーであるが、集団守秘義務のもと、その席上で心理検査を施行している事実とその目的と対象範囲等について説明を行っている。ある校長には、表1のような不登校生徒のSCT反応文（抜粋）の一覧表を見てもらった。なによりも相談室という密室でSCが心理検査を用いている事実を開示し、SCTという技法の目的や対象を解説することで、校長にその有効性についての認知を得るためであった。その結果、短いながら文章に表された生徒たちの内面の一部を知ることになり、校長は大変関心を持たれた。やはり実際の検査用紙を目にしてもらうのが、ひいてはSCT施行の協力にもつながる。

「学校現場でのSCT施行の留意点と工夫」—まとめ—

1) SCの所属する教育委員会で心理検査が禁止されていないことを確認する。
2) SCの勤務する学校で心理検査が受け入れられるように、学校全体に理解·協力を努めることが望ましい。あくまで本人の援助に役立つものであることを伝える。
3) 実施には、検査の目的を話し、内容については影響のない範囲で事前説明を行い、インフォームド·コンセントを得てから実施する。保護者および担任に了解を得ることが必要であろう。
4) 被検査者に安心感を与える検査のやり方で行う。十分、本人とラポールをつけてからが望ましい。そのためにも描画は、SCTの先に施行している。

Hosei University Repository

5) 記入した結果は、本人と一緒に読み直し、被検査者の書いた時の気持ちを聞いたり、反応内容についてきちんと本人にフィードバックする。
6) 保護者や担任に結果から得られた評価を報告するが、SCTの原本を開示するのは本人の了解を得てからと考えている。
7) 著者は、不登校や不登校傾向の生徒のうち必要と思われる生徒にSCTを導入している。一人ひとりの人格の全体像の理解が基本であり、そこから、同じような問題に対しての差異や共通性を見出そうと試みている。

表1．不登校生徒の中学生用SCTの反応文（抜粋）

刺激文	女子（13歳）不登校	女子（14歳）別室登校	女子（13歳）問題行動	女子（13歳）別室登校
小さい時、私は	だれでも話しができた。	明るい性格だったと思います。	(親族名称) に育ててくださった	けっこういじっぱりでした。よく泣いておこっていました。
どうしても私は	＜空白＞	たくさんの人のいる所で普通にあんなと喋ることができません。	ぼうりょくが直らないのか。	バカです。
私がきらいなのは	学校	〈空白〉	にがうり	虫です。
学校の成績は	悪かった	はすごく悪いです。	悪い	ものすごく悪いです。
私のできないことは	話ができない	たくさんあります。	べんきょう	テストです。
友だちの家庭にくらべて私の家庭は	わからない	楽しいです。	悲しい	悪いです。
私が好きなのは	昔の歌　60～70's の	〈空白〉	昔（親族名称）2人とき	(キャラクター名) です。家族です。ゲームセンターです。
私が皆より劣っていることは	数学、話しができない	勉強とか…いろいろです。	すぐぼうりょく	頭が悪いことです。
大人	は、なにもわかってくれない人が多い	に早くなりたいです。けど、まだなりたくないっていう気持ちもあります	にはまだなっていないと思う。	になったら●●の先生になりたいです。
先生	わすれっぽい	好きではないです。	よく、自分のことを知ってくれてる	私のことをよくわかってくれています
お金（かね）	はない	はほしいですね。	がほしい。	は、けっこうあります。
友だち	は学校にはいない	は何でも話せる友達だけでいいです。	ともけんかするときもある。	やさしいです。
私がくやしかったのは	かおが●●いと言われたこと	学校でなにもいいかえすことができない時とか。	●●が置いてった事	教室にいけないこと
私を苦しめるのは	学校	今と過去です。	あくま	友達です。
学校では	いつ私が何を言われてるかと思うとこわかった	ほとんでなにも喋らない無口で静かなこです。	べんきょうとかドリルを別室でやる	学習室にいます。

注）●の部分は本人特定につながるのを避けるため伏せる

Hosei University Repository

以上述べてきた不登校生徒対象のSCT活用例のひとつとして、発達障害の疑いが持たれた事例を紹介する。医療での細密な検査をともなう診断までにこぎつかず、SCである著者が、本人とその家族（特に母親）に向けて学校や関係機関と連携し、支援方策を何度となく練るが、度重なる頓挫に援助職のプロたちもさじを投げそうになる。わずかの情報ともみえるSCTの中から拾い上げて支援につなげたものについて述べる。施行までの経緯が長いが、事例の特殊性を知ってもらうため、ご容赦いただきたい。

表2. B君の生育歴

		小学校までは、母親からの聞き取りによるもの
年月	本人の様子	学校・その他（SCの連携先）
200X－12	誕生、帝王切開（分娩停止） ●医大病院 3500g、50cm、33.5cm（胸囲）35.5cm（頭囲）	
200X－11	ヘルペス（1.5才） はしか、水ぼうそう （注射恐怖で接種していない）	●市 C市へ
200X	小6　初回面接	
200X＋1 （中1）	中学校入学 ほどなく不登校に（上級生からいじめ） 適応指導教室を希望する 10月適応指導教室に正式入室 適応指導教室は楽しみ 夜尿が毎日のようにある	特別支援学級での対応 6月父母教育相談（中学）、 教育委員会 （H主査、I相談員とSC連携） 10月教育センターで紹介された「●クリニック」を2回受診するが中断。不信感
200X＋2 （中2）	間もなく適応指導教室でトラブル。 週1日2時間枠に限定される 「学校、自分のこと忘れられちゃう」 完全不登校状態になる 夜尿治る 指の傷のメンデイングテープが取れる SCの相談室に、母親と来室する	担任は■先生 6月父母、担任、主査、J相談員、SC、 教育研究所のSNN（家庭訪問指導員） K氏との連携始まる 12月NPO発達相談センターにて WISC L氏から診断をすすめられるが、 受診がかなわず 教育センターも中断状態（キャンセル多発）
200X＋3 （中3）	適応教室・離任式に出席 中3の途中から、SNNと登校 担任と会い、気があう 一人で来校する	（公）こども医療専門施設を紹介するが、 予約を数回キャンセルして行けず 適応教室・主査はM先生に 担任はN先生 4月　M先生、担任、SNN，SC

Hosei University Repository

	養護学校は嫌（プライド） 夏休み中は、学校見学 母親と SC 相談室で面接する 2 学期から「学習室」も利用 修学旅行は欠席	5 月　C 市養護・O 先生と連携 6 月　家庭訪問（SNN，SC） 7 月　SCT 施行 7 月　「▲クリニック受診」 アスペルガーと診断される その後、診断が即であったと不信感 1 回のみで、その後受診せず
200X＋4 （卒業）	SNN と教育研究所で会う（全 13 回） 入試の面接練習に登校する ●校に合格する 卒業式予行演習に参加 卒業式出席	進路の相談→担任 進路の悩みや不安→ SNN（本人） → SC（両親）

表 3．SC との面接

SC との面接	200X 年度	本人：1	母親：5	
	200X＋1 年度	本人：3	母親：6	父親：1
	200X＋2 年度	本人：4	母親：12	父親：2
	200X＋3 年度	本人：10	母親：18	父親：1
	合　計	本人：18	母親：41	父親：5

④ 事例紹介

ここで紹介するのは B 君、男子、中学 3 年生、14 歳である。200X+3 年に SCT を施行している。B 君の生活史の概要については表 2、面接回数については表 3 を参照されたい。

a）来談経緯

著者の勤務する C 中学校の生徒は、主に学区内の 3 つの小学校から入学してくる。2000X 年 6 月、そのうちの 1 校である D 小学校の 6 年生の男子生徒のことで担任 E 教諭から SC へ相談の依頼がある。担任は本人が小 2 で父親の転勤にともない転校してきた時にも担当したことがあり、ベテラン女性教師である。その当時から情緒不安と学習障害の傾向があったようで、小 3 からは担任が変わり、席に座っていることができず、友人へのちょっかいが目立っていた。特別支援学級（以下、特学）との併用で、パニックをよく起こし、母親も学校へ始終呼ばれていたという。母親の健康状態も悪く、母親の具合が悪くなると本人は母

Hosei University Repository

親が心配で学校を休むというパターンができあがっていた。後にSCは母親からB君の生育歴の聞き取りをするのであるが、母親の病歴に関しての資料（父親がA4の紙にびっしりとワープロ打ちしたもの）には、B君が小6までに、7回の入院と、9つの病名や症状が書かれていた。このため母子分離も遅延しており、担任は母親にSCのカウンセリングをすすめたところ、長年の医療不信が募っているが、学校にいる専門家ならばということで会う気になったとのことであった。

b）B君のプロフィール

(1) 200X年　小6年次の担任E教諭の観察と評価

学習面では、読書が好きで語彙は豊富。漢字はほとんど書かない。作文は書くのは苦手であるが、話すのは好き。記憶力、理解力があり、耳で聞きながら覚える。計算はできるが、文章力、応用力は不十分。図工と理科が好き。音楽はほとんどやらない。体は非常にかたく、ボール運動などのチームプレイは全くできない。6年生としての運動能力は非常に低い。授業中、教科書・ノートは全く出さない。好きな工作や描画をしている。

生活面では、整理整頓が全くできない。グループ活動ができず、わざと邪魔をしたり、どこかへ行ってしまう。教師のお手伝いは喜んでやる。人から注意されたり、指摘されることがあると、かっとなりやすい。いったん怒ると、物を振り回す、物を投げる、叩くなど暴力的になり、なかなか収まらない。怪我をさせることもあった。

(2) 200X年　小6年次のSCから見た印象

著者は6月に授業参観をして、本人の観察をした。休み時間に、母親と初めて会うが、体調不良で廊下のベンチに横たわったままでのあいさつであった。母子ともに背丈は低い方でやや肥満の印象であった。特に、本人は年齢よりかなり幼く見えた。授業はディベートで質の高いものであったが、きちんと発表をしていた。担任の話しでは、母親が見ているとできることが多いそうである。途中まで集中していたが、飽きたのか図書室へ行ってしまい、残りの時間は一人で読書をしていた。人なつっこい感じがした。8月に担任と家庭訪問をした。母親、担任と3人で話をしている横で一人ぱくぱくとスナックを食べつくし、少し会話すると、すぐ2階の自室へ上がってしまう。TVゲームが好きで、特に子ども向

Hosei University Repository

けのキャラクターに夢中である。そのキャラクターや電車を自分でよく紙細工する。飼い犬（担任の勧めで飼う）は可愛がっている様子であった。

(3) 支援の困難さ　（中学入学以降、表２参照）

200X 年６月～200X+1 年３月、SC は小６年次の本人と２回会ってみて、どうも発達障害の印象を得たので、E 教諭に事例が載っている新聞の切り抜きのコピーを送付する。「まさに B 君にぴったり」との感想であった。そのことから、担任と SC は、今後母親とのカウンセリングを続けることで、SC（専門家）と信頼関係を築き、本人を医療につなげ、両親にわが子の障害の有無について診断をしてもらい、その上で中学校の対応から将来の可能性までを探ることを目標と定めた。

その目標に近づくためには、生物・心理・社会の３つの側面から B 君を理解し、B 君と家族の抱える問題を可能な限りの社会資源から支援できるよう具体的に方策をたてなければならない。SC はまず母親を心理面から支える役割を中心に据えた。B 君は今までどおり担任はじめ学校関係者の援助を受けながら、幼少から受けた「いじめ」等の心の傷を癒す専門家を探すことが、母親から希望された。その時点で、母親は自身の子育ての不十分さに対して自責の念があり、それでいて周囲からわが子の諸問題は家庭に原因すると指摘されているとの不満もあった。担任と SC は、B 君の発達障害の疑いをぬぐうことはできず、その有無は支援対策の大きな鍵となると予測した。しかしながら、発達障害のケースでは親が子どもの障害を認知し、受容するのに平均して２年はかかると聞き及ぶので、前途多難であると予想された。

200X 年 11 月、連携先として、母親の希望で、教育センターの臨床心理士へ B 君の心のケアを依頼する。後日、受諾。

200X 年 12 月、初回面接。本人担当 F 相談員（後に変更）、母親担当 G 相談員。SC は G 相談員（臨床心理士）と適宜情報交換と支援の調整を図る。

200X ＋１年　春休み、C 中学校の１学年主任と特学の担当教諭が家庭訪問をする。両親は中学校への期待が大きかった。

c) 中学入学以降の対応と連携状況

(1) 200X+1 年４月（中１）担任●教諭

母親は、かねてから医療事務の勉強を始めており、近所の小児科に就職する

Hosei University Repository

(12 月に退職)。B 君は入学後すぐに特学での対応となり、間もなく上級生から階段から突き飛ばされそうになるなど「いじめ」を受けたと不登校になる。学校側はその事実を確認できず。両親は、教育委員会に相談に行き、そこで適応指導教室を希望する。

(2) 適応指導教室（H 主査)、教育研究所（I 相談員、臨床心理士）

200X+1 年 10 月　正式入室に時間がかかった。他の生徒との関係があまりよくなかったようである。

(3)「●クリニック」(児童精神科)

SC は、なんとか医療機関につなげるため、そのきっかけとして、夜尿症に注目した。本人も母親も相当困っていたので、その相談ということで、教育センターからの紹介で、受診する。しかし母親は服薬させなかった。父親も付き添い、2 回受診するが、主治医に不信感を持ち、中断する。

200X+2 年　適応指導教室において、対人トラブルが多く、衝動行為に対して職員不足で対応が困難であると、参加は「週 1 日、決まった曜日に 2 時間のみ」という限定枠になった。本人も両親もこの処遇に不満を抱いていた。そこから、適応指導教室へ行く気持ちが低下する。完全不登校状態になる。

(4) 教育研究所の家庭訪問指導員（以下、SNN と記述する）

SC とほぼ同年代の女性、K 氏と密接な連携を組むことになる。K 氏が家庭訪問をするが、B 君を外へ連れ出すことも始める。

この頃になると、両親も B 君を 「LD 傾向がある」と表現するようになる。主査、SC から両親へ、医療ではない発達の相談機関へ相談することをすすめる。SC の紹介で、本人、両親はすんなり従った。

(5)「発達相談センター」(NPO)

WISC 施行。テスター L 氏（臨床心理士）の見立ては、たぶんアスペルガー症候群であろうと、専門医を紹介する。しかしながら、母親は遠方であることや経済的理由から受診を拒む。

WISC の結果：言語性 81、動作性 100，全検査 89。

Hosei University Repository

知覚統合が高く、注意記憶が低かった。下位検査の得点のばらつきが大きく、知能のバランスの悪さが明瞭。

200X＋3年　教育センターの母子面接は、キャンセルが頻回のため先方から断りがある。両親もセンターの対応に不満な点をSCに伝える。

SCとしては、今後の支援のためにも医療につなげるのをあきらめず、経済的なこともあるので、公的専門機関を紹介する。しかし、数回予約をキャンセルし、結局行かないことになった。母親は、「精神科ということで、うちのBちゃんにもプライドがあるから」ともいう。

しかし、高校進学が希望ということで、新しい適応指導教室M主査、担任N教諭、SNNとSCは、「B君プロジェクト」を発足させる。彼にあった学校選びの対象に、養護学校も視野に入れることになった。

(6) A市養護学校・O教諭

母親と面談し、母子で養護学校を見学した。本人は「自分の行くところではない」とのこと。母親も同意見。

次に、SNNとSCは家庭訪問をし、本人と両親の5人で進路について話し合う。TVを見ていたB君は、母にTVを消すよういわれて、しぶっていた。他人ごとのようであったが、一応進学の意志はある。

「最低高校は卒業する。だっていい仕事に就けない。ニートになったら、お金が入らない。家を建てるなんてこと、言語道断！」と彼特有の抑揚で言う。SNNとSCは、母親の「仕事とカラオケ教室が忙しい」との愚痴を聞きつつ、あきらめずに支えることを再確認する。

(7)「▲クリニック」

近隣の専修学校を見学するなどと平行して、本人の特性を理解することにより学校選びにヒントを得たら、と受診の意思を問う。O教諭のすすめた「▲クリニック」を受診することになる。SCも受診に付き添う。医師はB君と2人きりで少し会話して、即座に「アスペルガーですね」と診断を下した。医師は進学受験の際に、そのように学校へ伝えた方がよいとも助言する。母親は、その時はあっさり受け入れたかに見えたが、診断があまりに早急なので、しばらくしてその医師に疑問を持つ。二度と通院はしなかった。

Hosei University Repository

B君の発言は表面上、つまり言葉だけはしっかりしているところもあるが、あまりに幼稚な考えも多い。彼の心理的な面や力動について客観的な物差しがない。知能検査の数値結果と、関係者による彼との会話から推測された認知や行動観察はあるが、不登校のため作文の機会もない。彼が自分のことについて言語表現をどのくらいできるのか、また幼稚であるとはいえ、思春期心性の存在はどうなっているのか、SCT施行を試みることにした。

d) SCT（中学生用）

(1) 検査時の様子

施 行 時：200X+3年6月

場　　所：学習室（別室）

検 査 者：SNN（家庭訪問指導員）。著者の代行であるが、B君の直接支援者

所要時間：25分

検査態度：おおむね良好に取り組んだ。ちょっとした刺激に反応するが、検査者が声をかけると元に戻るのも早く、かなり集中していた。（検査者の報告より）

(2) 結果

SCTの内容を図2に表す。原本を提示することができないので残念であるが、乱雑な書き方というのではなく、著者にいわせると、きわめてめずらしい視覚的な記述であった。B君の物言いがそのまま表されているようなのである。つまり自分自身の声の大きさに合わせたような文字の大きさの変化である。マンガの吹き出しに使用されているようで、マンガやTVゲーム好きな彼にありうるのかもしれないが、そのような中学生のSCTは、ほとんど見ない。顔文字も見られた。女子高生丸文字や表現法ともニュアンスが違う。文字を書き慣れていないためか、ひらがなによっては正確な形がかけていなかった。空白は1つもなく、書くことがないと、「、、、、」と記入してあり、何かは書かないといけないということなのか、いずれにしてもすべて反応は単語か短文である。

予想よりも、きちんと文章での反応が多かった。防衛的というよりは、関心のないことや経験の少ないことにはコメントせず、正直に反応していたと思われる。家族に関しては、「**妹は　犬です**（Ⅰ－3）」は、一人っ子の彼が、飼い犬をそう

Hosei University Repository

実感しているところもあり、SCとの質疑でもまじめに応えている。ユーモアととらえてよいかは不明である。一番親密な母親を「鬼」と呼び、いつも「おこられている」が、しかられる原因はⅡ－22で「なんでだろう～なんでだろう(古！)」とちゃかしているのか、わからないと開き直ってしまう。父親に対しては、本気で怒ればこわいと、一目は置いている。「**お父さん** 食堂でいつもゴミたべる（Ⅰ－14)」と書くが、これは「ゴミのようなもの」と本人が説明をしている。しかしながら、「**友だちの家庭にくらべて私の家庭は** とくしゅです（Ⅰ－16)」という真意は聞けなかった。

B君は自分自身をどのように認知しているのか。健康に気をつけていること、苦しめるものは「ないぞうしぼう（Ⅱ－20)」と、自分の身体に関して気にかけている。これは、思春期の身体像の変化を意識する自意識とつながっているように思われる。

Part Ⅰ
1 **小さい時、私は** ●●[注：地名]にすんでいました
2 **御飯のとき** 、かならずやさいジュースをのむように心がけています
3 **弟は** いません
妹は 犬です
4 **学校から帰って私は** つーか学校行ってないし…[注：パソコン打ちの顔文字]
5 **どうしても私は** 母におこられる
6 **運動** はにがて
7 **私がきらいなのは** 虫！ススメバチ、ゴキなど.
8 **私の空想** はめちゃくちゃです
9 **私がはずかしいと思うことは** ... って！かけるわけがない！
10 **私の服** はすこし大きめ…
11 **学校の成績** はオール0（そくていふのうなため)
12 **もし私が** マンガのせかいにいけたら…
13 **私の失敗は** ラブの失敗（え
14 **お父さん** 食堂でいつもゴミたべる
15 **私のできないことは** …パッツクてん…
16 **友だちの家庭にくらべて私の家庭は** とくしゅです
17 **男の友だち** 2人くらい…
女の友だち 0人
18 **私が知りたいと思うことは** 、とくにない！（え
19 **けんか** は好きじゃないけど…
20 **私が好きなのは** 、食！とくにからあげ

Hosei University Repository

21 私がひそかに　HPもっているということはナイショ！
　　http://ふりいけっとるアドレス//ピクミン//star.???.html
　　○○○○からりんく OK
22 私が皆より劣っていることは　、うんどうしんけい
23 私のしてもらいたいのは　、やきにく！
24 大人　はずるい
25 大きくなったら私は ,,,　とくに何もかんがえてない！

Part Ⅱ
1 家の人は　、　.....
2 私はよく　肉をたべます
3 先生は　,.....、ん～　…かくことがな～い
4 働くこと　それは金をかせぐこと
5 私がこわいのは　、母！＋父も本気でおこったらネ...
6 お兄さんは　いない
　お姉さんは　いない
7 私がうらやましいと思うのは ,,, なし
8 本　がたくさん！
9 時々私は　、キレることがある
10 お母さん　は鬼です
11 私がなりたいのは　,.... なし
12 うれしかったとき　、くりすますかな,.
13 家では　、...
14 私の不平は　なし
15 お金　がな～い　金欠です
16 時々気になるのは　なし
17 友だち　・・・ねえ...
18 私がくやしかったのは　、白カブのかりねが500いじょう上ったのに
　　カブがなかったこと.
19 学校では　.....
20 私を苦しめるのは　,,,, ないぞうしぼう
21 私の父の仕事は　,,, 金父[注：鉄の誤字]かんけー
22 私が叱られるのは　なんでだろう～なんでだろう～（古！）
23 私が自慢したいことは　・・・
24 勉強　はにがて　パソコン好き
25 家でよくいわれることは　、宿だいやれ！って母に言われる

図2. B君のSCT（中学生用）

運動が苦手で、運動神経が皆より劣っていること、成績はオール0、勉強苦手でパソコン好き等、劣等感も感じながら、しかし深刻さがない。知りたいこと、

Hosei University Repository

大きくなったらという将来への希望もとくに考えていない。

ただ、ある面で客観性もあり、「**私の空想**　はめちゃくちゃです（Ⅰ－8)」とか、「**もし私が**　マンガのせかいに行けたら（Ⅰ－12)」と自分の世界（ファンタジーの世界）を大事にはしているが、そこが虚構であることを認識はしており、自閉してはいない。完全不登校の時でも、太りすぎて学校へ歩いていくのが億劫であるだけで、気のあった数少ない友人といっしょにマンガを読んだり、ゲームをすることは望んでいたようである。ただ、「**私がくやしかったのは**　、白カブのかりねが500いじょう　云々（Ⅱ－18)」というのは、B君のゲーム界の話題であり、一般には了解不能であろう。

社会性についてみると、ある程度自分の家庭と友だちの家庭を比較することができ、社会性についてみると、パソコンで自身のHPも持っているという。ここでも対人交流がある。そして、1－24で大人は「ズルイ」と批判的な目も育ってきて、思春期の始まりが感じられる。

やや著者が驚いたのは、「**働くこと**　それは金をかせぐこと（Ⅱ－4)」と理解していることである。そのへんのアンバランスが問題なのであろうが。

まとめると、B君は一人っ子で学校へ行っておらず、家の中で、パソコンで遊んでいることが多いが、両親は放任してはいない様子で、勉強に関しては本人はうるさいと感じている。食に関しての記述が多く、不活発で体重が増加しているのを気にかけている。反応文は概ね理解できるが、所どころ了解不明の内容がある。

将来への見通しは低い。知能は平均よりやや劣る。diffの狭さや、14歳にしては現実検討する力が不足であり、年齢相応の自我分化が感じられない。時折ユーモアもあり、対人欲求がないわけではない。時々「きれることがあります」と、自分自身で感情コントロールがよくないことを意識している。しかし、全体としては未熟さが印象的である。自分の趣味に関しては意欲があるが、馬力はほとんどない。評価としては、このSCTからも、発達障害の疑いが大であるといえよう。

以上がSCTからみてとれたB君の内界や、家族、友人、社会に対する認知や指向である。面接での対話からはわからなかった一面が引き出せたと考える。B君本人は、問題を掘り起こすことに関心はないのであるが、自分を少しでも理解してもらえたという気持ちはあったようだ。本人の了解のもとに、母親にも同時に見てもらって、フィードバックしたが、あまりB君をがみがみ叱るのは反省

Hosei University Repository

したようである。また、B君の劣等感などについても、以前よりも理解できた。B君の書いたものを実際に見て、IQそのものではなく、われわれのいうdiff.の低さを実感したと思う。それが、進路への一助になっていった。

⑤考察

SCの立場から見たB君は、面接場面では決して「キレる」ことがなく、よくおしゃべりをし、時にあまりに自己中心的で幼い発想で、ため息もでることがあったが、ユーモラスで、描画も楽しい内容のものであった。しかしながら、学校現場でのB君は、大人数は不得意で、特学では間違ったプライドから級友をバカにする発言が出てしまう。担当教師（当時2名）は、そのようなB君と親の教育を批判することもある。子どもからも大人からも、集団力動により、B君のような子どもは敬遠されてしまうことがある。B君の生育歴を考慮すると、出産障害もあるかもしれないし、母親の繰り返された入退院などで、アタッチメントの問題もあるであろう。本人の発達障害から、2次、3次障害が派生してきたことも考えられる。そして、両親も、学校や相談機関への不信が大きくなり、被害感がつのってくるという悪循環になる。

SCのような役割のものが、本人の理解を周囲に知らせる資料として、またSNNなどの地域支援と担任などの学校システムでの教育支援とをつなぎ、具体的支援策を構想するのに、この事例にはSCTは有効であった。SCT施行のあと、自宅から少しでも学校へ登校するのを支援し、また教育研究所で適応指導教室の生徒たちといっしょにゲームをするなど、少数集団のなかで落ち着いて遊べる機会を持った。もちろん、B君自身の心身の成長も（通常より目立たないが）あり、彼を抱える家族も親としての成長が見られた。

その後、B君は中学校を無事卒業し、現在は近隣のサポート校に通っている。「鉄道クラブで友人もできていて、学校を休む日は少ない。ただ、ノートを開くことがいまだ課題」（母親談）であるらしい。中学での不登校は、時間をかけて支援者がじっくり取り組むことで、次のステップへと歩みだすケースが多い。SCTが少しでもその時間を縮小できるツールとして使用できればよいと考えている。

Hosei University Repository

(3) 採用現場におけるSCTの活用事例について：適性検査の課題とSCTの役割

① 企業における人事管理の意義

企業経営の現場においては、「人材」という要素が非常に重要である。昨今では「人材」の代わりに「人財」または「人的資源」という語を使用することがよく見られるようになってきた。組織活動というものは、機械のようにスイッチをオンにすれば自動的に動くものではない。特に、比較的大規模な事業になれば、個々の人材を機能的に動かしていく組織運営が難しくなってくる。そこでは、事業活動の中であらゆる資源を探し求め、それらを調整しながら使いこなしていく「人材」が不可欠である。そして、その人材を管理する活動ーすなわち「人事管理」が必然的に重要になってくる。

企業の人事管理には、2つの責任が求められる。まず第一の責任は、経営者のめざす戦略を遂行するうえで必要な能力を発揮できる人材を組織の中に備えておくことである。企業の戦略は常に単一のものではなく、あらゆる状況に応じて変化していく。人事管理の立場ではその変化を常ににらみながら、ただ今現在だけではなく将来において必要と考えられる人材を組織の中に備えておかなければならないのである。

また第二の責任として、それらの人材を戦略の方向性に合致させることが求められる。人材と一言でいっても決して単純な存在ではない。多様な価値観や目的意識をもち、将来のキャリアに対する要望もそれぞれ異なっている多くの人の集合体である。そのような中で、企業の戦略に、組織を構成する人材の一人ひとりの意思と能力を整合させていく工夫が必要になってくるのである。

② 日本企業の人事管理の基本

欧米企業と日本企業の人事管理における基本は大きく異なっている。欧米企業においては、人事管理の基本は「ジョブ」であり、その「ジョブ」を積み上げたものが組織となる。そして、一つひとつの「ジョブ」に賃金が設定されている職務給が採用されている。採用業務においても、ある仕事を遂行していた人材が退職したり、新たに必要となる仕事が発生することによって、新規採用が行われる。したがって、そこでの採用基準は極めて簡便であり、その仕事がすぐに遂行でき

Hosei University Repository

るか否かということに絞られる。応募者もそれを前提として応募してくる。逆に言えば、企業の中で、アウトソーシングや組織改編などにともなう業務見直しによって、ある仕事がなくなってしまった場合には、その仕事がなくなったのであるから、その仕事を担当していた人材は当然に解雇されることになる。また、仕事そのものも人材の流動化を前提としたものにする必要があり、ある程度の知識があれば遂行できるように標準化されたものになってくる。

しかしながら、日本における人事管理の基本は「人」である。仕事の内容も欧米企業のような標準化されたものではなく、各企業独自の文化や風土を反映したものになっている。ある企業の業務をそのまま他社で活用するのは、たとえ同じ業務であっても困難なので、転職等の人材の流動化も少なくなる。閉じられた世界で職務に精通・熟練していくことで、その世界の中では人材の能力や役割期待は高まってくる。その企業における貢献度も高まってくれば、それにともなって結果としての給与も高くなる。

アウトソーシングや組織改編等によって仕事がなくなってしまっても、原則的には「解雇」を考えることはほとんどない。通常であれば、そのなくなった仕事を担当していた社員・職員は、他の事業部の同一職務を担当する部署または他の職務を遂行する部署へと異動となり、なんとかして雇用関係を維持することに努力が傾注されるのが通例である。

③ 日本企業の採用業務について

企業は戦略を効率的に遂行することで、他企業との競争において優位性を確保し、将来のさらなる持続性の源にしていく。その過程において、戦略を立案・遂行していくのは人であり、そこで必要となる人材を確保するために外部の労働市場から人材を調達することが「採用業務」である。

日本企業の採用業務の特徴としてあげられるのは、新卒採用を重視しているという点である。新卒採用とは、大学・短期大学・高等専門学校・各種専門学校・高等学校を卒業したばかりの人材で、かつ業務上必要とされる知識や技能をもっていない人材であっても一括して採用し、企業の中で教育・研修を行って戦力化していく採用の方式である。

前述のとおり、欧米企業のような「仕事」を基準とした組織での採用とは異なり、日本企業では「人」を基準とした組織が多い。このような企業での採用とは、

Hosei University Repository

どういう採用になるのであろうか。結論から言うと、職務分析に基づいた一つひとつの細かい人材要件に基づいた採用というよりも、応募者一人ひとりのポテンシャルを重視した採用基準を設定することになる。つまり、教育・研修に適応して必要とされる能力を身につけていく力、将来どの程度のところまで成長していく力を持っているかという点が採用基準となるのである。

また、教育・研修には当然に膨大な費用が発生し、企業はこの膨大な費用を回収していかなければならないから、長期間の勤続がもとめられるし、それを前提とした仕組みが人事管理の中の仕組みとして構築されてくる。入社後はある程度までは一律に昇給をしていくが、数年を経た頃から徐々に実績評価が厳しく問われるようになり、熾烈な人材選抜が始まる。その過程の中で、ゼネラリストは組織内の様々な部署にローテーションされながら内部育成され、スペシャリストは長期雇用の中で知識や技能の伝達が行われていく。

現在においても基本的にこの運用形態を継続している日本企業が多いが、企業を取り巻く環境変化により、徐々に採用に多様性が見られるようになってきた。その環境変化とは、90年代から続いた長期間に及ぶ不況である。もはやこれまでのような確実な右肩上がりの経済成長は見込めず、不確実な市場環境の中で企業は変化に対して迅速に適応していくシステムづくりが求められるようになってきた。このような環境変化に対応して多くの日本企業では中途採用（通年採用ともいわれる）が頻繁に行われるようになってきた。環境変化に迅速に適応していくために、従前のように社内で長期間にわたりゆっくり育成する余裕がない場合には、即戦力として中途採用が必要になってきた。また、長引く不況にともない、経営における固定費を低減する目的で、中核業務以外についてはパートタイマーや派遣社員等の非正規社員を積極的に活用する傾向があらわれてきた。このように雇用形態の多様化とあわせて日本企業の採用にも新規学卒重視から多様な採用への試みがみられるようになったのである。

④ A社の事例 *13

A社では、新卒採用で入社した新入社員を貴重な「人的資源」と認識し、その人材が幹部候補になりうる人材であるのか早期に見極めたいニーズがあり、そのツールとして多様な適性検査を実施している。いわば、適性検査を採用選抜ばかりではなく、早期幹部候補選抜の目的として実施しているのである。もちろん入

Hosei University Repository

社後の就業状況により高い評価を得て抜擢されるケースも数多いが、ここではA社を事例として適性検査の課題とその中でのSCTの可能性について考えたい。

a) A社の事業概要

サービス産業に属するA社は複数のサービス事業を運営する子会社を有しているが、その中核事業の市場規模は約3.4兆円で放送、航空業界とほぼ同程度と言われている。この業界でA社はトップ企業であり、同業界の他企業の2位から15位程度の企業の売上高を合算・比較しても、まだ業界1位であるA社が上回っているほどの卓越した事業規模である。

A社は人事の基本方針を「会社の発展と社員の成長は一体不可分」としており、社員の採用・確保とその成長が事業の根幹であり、事業の運営と発展に欠かせないと考えている。その採用概況についてみると、ベンチャー企業によく見られるように、急速な事業拡大に間に合わせるため、中途採用を積極的に行ってきた。これは言わば、結果として昨今の日本企業による採用形態の多様化を先取りしていることになる。

b) A社における新卒採用について

2006年度においては、新卒採用250人程度と発表されている。A社の新卒採用では学閥というものはなく、万遍なく多様な大学、高等専門学校、各種専門学校等から採用している。

A社では、新卒の新入社員について、その人材が幹部候補になりうる人材なのか早期に見極めたいニーズがある。A社に新卒採用で入社した新入社員は入社当初は顧客にサービスを提供する直接原価部門に配属されるが、入社2～3年後には販売管理部門等の多様部署へ定期的に異動させることで、その人材のキャリアを開発していくことを想定している。しかし、A社はもともとベンチャーという不確実な経営環境の中にいたため、変化に迅速に対応していくスピードが求められてきた。人事管理上においても長期間にわたりゆっくりと人材を万遍なく育成する余裕がなく、優秀そうな人材を思い切って抜擢してきた経緯がある。しかし、新卒の人材については就業経験がアルバイト等のごく限られたものであるため、「人的資源」としてみた場合には不確実な部分が多い。そこで、A社では、新卒採用の審査から入社までの過程において、多様な適性検査と面接を実施し、

Hosei University Repository

採用選抜と早期幹部候補選抜の参考にしている。

A社で実施している適性検査は以下のA～Eの5種類である。下記のA～D検査を採用選考のツールとして使用し、D～Eを早期幹部候補選抜のツールとして使用している。また、A～D検査については選考過程で実施し、E検査については内定後、入社までの間に実施している。

A検査：知能検査（独自開発し、結果を偏差値で表している）

B検査：作業検査（簡易式の作業検査）

C検査：質問紙検査（5つのプロフィル型を算出する）

D検査：管理職用適性検査

E検査：精研式ＳＣＴ

c）適性検査の事例

【Ｘさん】

大学4年生　私立女子大学家政学部卒　女性

＜適性検査結果＞

A検査（知能検査）：偏差値61

B検査（作業検査）：A

C検査（質問紙検査）：D型

D検査（管理職用適性検査）：下の表4の通り

表4．Ｘさんの D 検査（管理職用適性検査）結果

基礎能力			自律	統率	理性	強靱	変革	行動	大胆	外向
概念	論理	総合	承認	調整	感情	繊細		思索		内向
57	59	58	44	34	44	68	44	55	58	58

＜面接でのコメント＞

・礼儀正しく言葉遣いも丁寧かつ適切である。落ち着いた話し振りで安定感がある。

・会社研究はよくしているものの、就職に迷いがある。

・関心の範囲は極めて広いが、個々の深さについては今ひとつだろう。

Hosei University Repository

【Ｙさん】

大学４年生　私立大学商学部卒　女性

＜適性検査結果＞

Ａ検査（知能検査）：偏差値 62

Ｂ検査（作業検査）：Ｂ＋

Ｃ検査（質問紙検査）：Ｄ型

Ｄ検査（管理職用適性検査）：下の表５の通り

表５．ＹさんのＤ検査（管理職用適性検査）結果

基礎能力			自律	統率	理性	強靭	変革	行動	大胆	外向
概念	論理	総合	承認	調整	感情	繊細		思索		内向
61	58	60	66	59	54	51	48	43	41	56

＜面接でのコメント＞

・明るく如才ない。

・論理的な説明力。視野の広さ・深さを感じる。

・学生時代の経験から、目標を持ち着実に実行していく力をもっている。

上記のＸさん、Ｙさん二人の適性検査Ａ～Ｄをみると、いずれも比較的良好な結果となっている。しかし、ＳＣＴで二人の評価を比較してみると、その様相は上記と大きく異なる。図３にＸさんのＳＣＴ（抜粋）、図４にＹさんのＳＣＴ（抜粋）を載せる。そして、表６に二人のＳＣＴの評価結果を示す。

Part Ⅰ

1　**子供の頃、私は**　外で遊ぶことが好きでした。現在キャンプや釣りなどアウトドア派です。

2　**私はよく人から**　見た目と中身にギャップがあるといわれます。イメージというものは、不思議だと思いました。

3　**家の暮し**　は、毎日が充実しています。得に、母と一緒に料理をする時間が好きです。

4　**私の失敗**　の中で、一番最近の出来事は、海外旅行でぼうしをなくしてしまったこ

Hosei University Repository

とです。買って１週間のものだったので、ショックでした。
5 **家の人は私を**　せっかちだといいます。思い立ったらすぐ行動に出したくなるタイプだからではないかと思います。
6 **私が得意になるのは**　人から必要とされるときです。やる気が出ます。
7 **争い**　事は苦手です。なるべく話し合いで改決するようにしています。
8 私が知りたいことは　この先私たちが宇宙へ旅行できるようになるのかということです。
9 **私の父**　食べることが大好きです。休みの日には、よく父と食事に行きます。
10 **私がきらいなのは**　思いやりのない人です。
11 **私の服**　の量は多い方だと思います。服が大好きで、たまに自分で作ったりもします。
14 **私のできないことは**　マット運動です。身体が固いので苦手なようです。
15 **運動**　は得意です。必ず毎日身体を動かすことにしています。
16 **将来**　は幸せな家庭を築きたいです。私の両親が理想です。
19 **私がひそかに**　ためている預金で、近々旅行に行きたいと思っています。タヒチに行きたいです。
20 **世の中**　には恵まれない人がたくさんいます。少しでもその人々のお役に立ちたいと、ユニセフに募金をしてみます。
25 **私の兄弟（姉妹）**　はゴルフをしています。休みの日には一緒に練習場に行き、教えてもらいます。
26 **職場では**　一つ一つのことをきちんとこなせる人間になりたいと思います。
28 **今までは**　セロリが食べられませんでしたが、今年から食べられるようになりました。
29 **女**　性独特の意見を持って仕事にとりくんでいきたいです。
30 **私が思いだすのは**　先日旅行したイタリアの風景です。

Part Ⅱ
1 **家では**　料理をすることが多いです。最近は中華料理をよく作ります。
2 **私を不安にするのは**　今後の世界情勢です。テロや戦争はいつになったらなくなるのでしょうか。
4 **私はよく**　映画を見に行きます。この間も○○を見ました。
11 **恋愛**　と勉強、プライベートなどのバランスをうまく取れることが理想です。どれも大切です。
14 **私が好きなのは**　スポーツです。水泳と野球とスポーツが好きです。
15 **私の頭脳**　がもっとやわらかくなるように、普段からクイズやなぞなぞ番組を見るようにしています。
16 **金**　の使い方は人それぞれですが、私は世界中を旅したいです。
17 **私の野心**　は世界を旅することです。今は、フランスとタヒチに行きたいです。
20 **私の健康**　法はヨガです。最近新しくホットヨガも始めました。体のラインがよくなった気がしています。
21 **私が残念なのは**　最近起きたバリ島のテロです。無差別な事件は心が痛みます。
22 **大部分の時間を**　趣味に使っています。ヨガと料理が最近はまっていることです。

Hosei University Repository

23 **結婚** 願望はありますが、まだ具体的な理想はありません。これから作られていったらいいと思います。
29 **私が努力しているのは** 常に笑顔を絶やさないことです。この先も続けたいです。

図3．Xさんの SCT

Part I
1 **子供の頃、私は** よく本を読んでいた。
2 **私はよく人から** 年上に見られた。
3 **家の暮し** は楽しい。
4 **私の失敗** はどうしようもないものが多い。つまり、笑ってしまうようなもの。
5 **家の人は私を** うるさい子だと思っている。
7 **争い** ごとは嫌い。だけど、必要なときは言う。それは争いじゃなくて議論、建設的なものであるべき。
8 **私が知りたいことは** 難しくて答えのないことが多い。例えば、「文化と文明」とは何かとか。
12 **死** って何だろう。でも人が向き合わねばならないテーマですね。
13 **人々** は皆それぞれで面白いですね。違いを受け入れられる人でありたい。
14 **私のできないことは** 規則正しい生活をすること。そして、ウソをつくこと。
15 **運動** は得意ではないけど、体を動かすのは好き。ダンス再開したいな。よさこいもいいな。
16 **将来** 幸せでありたい。そして回りも幸せにしていきたい。自分だけより、みんなと幸せの方がもっと幸せだから。
18 **仕事** を始めるのがとても楽しみです。でも、卒業までに勉強も思い切りしたい。
21 **夫** は主婦業にオープンな人がいいな。つまり、男女の差なく、働き、家事をし、子育てしたいです。
22 **時々私は** とても落ち込むけど、人生そういうこともあるでしょう。
23 **私が心をひかれるのは** 生き生きしている人です。そういう人は顔を見れば分かるし、私もそうでありたい。
26 **職場では** のびのび明るくありたいです。
28 **今までは** とても幸せだった。これからも幸せに生きるぞ。そして、その幸せを世の中に還元したいです。

Hosei University Repository

Part Ⅱ

1 **家では**　すぐ寝てしまいます。だから勉強は外で。

2 **私を不安にするのは**　自分の能力があまりにも低いこと。しかし、やらないと伸びないからやるしかない。

3 **友だち**　って難しい。仲良くもあり大好きだけど、ライバルでもある。一緒に高みを目ざしたい。

7 **もう一度やり直せるなら**　と思うようなことはあまりない。失敗しても成功してもそこから何か学び取って今の私があるから。

8 **男**　ってある意味差別されている。女が働いて生きるのが大変と言われるということは、逆に男は「働かなくてはいけない」としばられているわけですから。

9 **私の眠り**　は深い。すぐ眠れる。いつでもどこでも眠れます。特技であり、問題でもある。

10 **学校では**　優等生でした。何でかな。いつも学校大好きでした。

12 **もし私の父が**　今のように頭よくなかったら、金稼いでなかったら、父へのコンプレックスはなかったかも。でも、そんな父でよかったと思う自慢の父です。

15 **私の頭脳**　はどうも悪くてやになるけど、まあこれが自分。常に自分のベストをつくすしかない。人と比べても仕方ない。

16 **金**　はないよりあった方がいいけど、一番大事なものじゃないでしょう。少なくとも、企業の最終目標は利益（金）であって欲しくない。

19 **私の気持**　は自分で切り替えられる。悲観的になるも、楽観的・前向きになるも、自分なので。

22 **大部分の時間を**　寝て過ごしている気がする・・・。よくないです。寝ないでガーガー働いたり、勉強したりしたい。

28 **年をとった時**　も頭の柔らかい人でありたいけど、どうすればそうなれるのかな。

29 **私が努力しているのは**　何でも。努力というか、がんばることは楽しいことだから。

30 **私が忘れられないのは**　何だろうなあ。色々あるなあ。常にいろんな素敵な人に出会って学んできたからな。自分はラッキーだったな。

図4. Ｙさんの ＳＣＴ

Hosei University Repository

表6. Xさん、YさんのSCT評価結果

	Xさん	Yさん
環境	裕福な家庭で育ったようだ。現在の家庭が理想の家族関係だと言っている。	家庭に大きな問題はない様子。家庭に対して肯定的な感情を持っている。父に対してやや劣等感があるようだ。
身体	ener. ±～＋ 背が小さく身体が硬いようだ。していること、やりたいことがいろいろ書いてあるが、身近なこと・遊び以外にどれだけエネルギーを費やしているかはよくわからない。現在、健康に大きな問題はない様子だが、不定愁訴は多いかもしれない。	ener. ＋～ 努力もするがよく眠る。かなり外では行動的なのではないか。健康に大きな問題はない様子。ＳＣＴでは後半の量が多く、エネルギーとＳＣＴを楽しんでいる感じと両方みえる。
能力	diff. ±～＋ ドメスティックなこと、日常的なこと中心で、あまり中身がない。誤字やミスが多い。少しいろいろ言い過ぎ。どれもあまり関わっている感じがしない。表面的でまとまりがない。現実検討力が弱く、将来のことはあまり考えていない。	diff. ＋～＋＋ 前向きで明るく力強く自分に対しても客観的。柔軟性もある。ユーモア感覚がある。見通しはある方だと思われる。
性格	type ESH G ＋～＋＋ / H ～＋＋ / N ± secu. ± 「せっかちで、見た目と中身にギャップがある」とよく言われるようだが、ＳＣＴからはあまりせっかちには見えない。ＳＣＴは夢想的でいろいろ華やかなことが書かれている。ここに書かれていることを全部きちんとこなせたら超人的。ということは、自己認識が甘く、現実検討力が低く、かなりの未熟さと不安定さを持った女性像が推測される。	type EH G ＋～＋＋ / H ＋～ / N ± secu. ～＋ 力強く明るくのびのびした感じ。男っぽい感じがするが、本人は女性性を肯定している。荒削りでＨもかなり強く、大雑把なところがあるかもしれないが、何か人間的魅力を感じさせる。くだけた感じがあり、羽目を外すこともあるかもしれない。やや理屈っぽいが、柔軟性も十分にある。
	意欲 ～± キャンプ・釣り・料理・海外旅行・	意欲 ＋～ 努力や頑張りを指向している。意欲

Hosei University Repository

指向	ゴルフ・映画・水泳・野球観戦・ヨガといろいろ言っているが、どれだけ現実性を持って取り組んでいるかは不明。世界情勢に関心があるようなことを言っているが、実際はただ外国旅行を楽しむことしか考えていない感じ。	的。上昇志向がある。現在の自分に満足していない。
総評	C～(B) まとまりがなく、拡散的で、華やか過ぎる感じがかなり気になる。未成熟で不安定な感じが強い。思い込みが強く、実生活がよく見えない。初めは大人しく見えるかもしれないが、人間関係や達成意欲に不安を感じる。一部の人には魅力的かもしれないが、ヒステリーや思い込みの強さなど疑えばきりがない感じ。相当アンバランス。	～A 前向きに困難を乗り切れる能力・資質を持っている感じがする。まだ荒削りなところは多いが、うまく育成すれば、魅力的でとても有能な人物になる可能性がある。

⑤ 事例からの考察

A社の適性検査A～Dについては、いずれも知能・性格・精神テンポ・生活態度等といった限られた面について評価しているものにすぎない。これに対して、E検査のSCTについては、その設計思想はトータル・パーソナリティという個人の全体像を対象にしており、他の適性検査と一線を画している。この差が前節で示した違いとなって、表れているように思われる。

一般に使用されている多くの適性検査は、質問紙によるもので、統計分析に基づいて、結果が導き出されている。質問の対象になっているのはいずれも過去の出来事や行動であり、それらに対する回顧や解釈を求める形式になっている。A社で実施している適性検査では、C検査とD検査がまさにこれに該当する。

これらの適性検査は、非常に簡便に個々の人材の適性を判断できるという点で、A社に限らず広く日本企業の人事部門で利用されている。しかし、この種の適性検査には総じて以下のようなデメリットがある。

Hosei University Repository

a）質問紙による限界

(1) 被検査者の曖昧な記憶に頼らざるを得ない

多くの質問が特定の出来事や行動に関して、その有無や頻度を求めている。しかし、日常生活においてその人が特定の出来事や行動を意識して、しかも正確に記憶しているという保証はない。したがって、多くの場合は曖昧な記憶による回答にならざるを得ない。

(2) 多様な解釈の可能性

質問の文章表現の曖昧さによって、質問を一読した人の間で解釈が異なる可能性がある。

(3) 趣向や期待、社会的望ましさ等が、回答にバイアスを与える

特に採用選考においては、応募者の期待や趣向等が質問項目への回答に過度なバイアスを与えてしまう可能性がある。

(4) 自己評価によるバイアス

自分自身が認識している自己像の範囲内の自己評価であることがバイアスを与えてしまう可能性がある。

b）統計分析の限界

(1) 因果関係を特定することが困難である

ほとんどの統計分析では相関係数が算出されるが、どれが原因でどれが結果であるかを判定することはできない。

(2) 隠れた変数が存在している可能性

どんなに多くの変数を調査に組み込んでも、隠れた変数が存在している危険性を否定できないし、因果関係は見かけ上のものかもしれない。

c）人間に対する認識

人事部門で適性検査を使っていて感じるのは、多くの適性検査に共通しているのは、対象である人間を細かい要素に分割し、一つひとつの要素について詳しく調べた上で、それらを総合して判定するという考えに基づいているということである。

多くの適性検査における人間に対する根本的な認識が、現実に合致していないように思われるのがこの点にあるし、この考えに基づいた検査には違和感を感じ

Hosei University Repository

てしまう。これはまさに機械と部品との関係に似ている考えだからだろう。機械が部品によって組み立てられており、部品を組み上げれば機械になるというのと同じような関係を前提にしているのである。

ところが適性検査の対象は決して機械ではなく、主体性を持ち、複雑で柔軟性をもった人間にほかならない。例えば、ある人が特定のタイプに該当すると質問紙で判定されても、常時通りの行動を示すとは考えられない。環境が異なれば、それに応じた行動が現れる。

また、人間についていえば、要素である各部分を集めて集計しても全体像に一致するとは断言できない。例えば、被検査者の行動を複数の要素に分割し、それぞれが高いスコアで評価されても、それらの各要素の集合体である実際の人間が完璧な人間とは限らない。

⑥ 課題

a） ＳＣＴの課題

ＳＣＴは、トータル・パーソナリティという個人の全体像を対象にしている。その点こそがＳＣＴの強みといえる。

しかし、ＳＣＴにも実際に人事部門で運用していくうえで課題がある。

まず第一は、判定・審査に時間を要することである。質問紙による適性検査は、コンピュータの入力処理で結果が瞬時にアウトプットされる。しかしながら、ＳＣＴはそのようなことはできない。熟練した人でも、1ケースあたり、簡易判定で10分から15分程度、所定の評価用紙を用いた一般的な判定なら30分から1時間程度の判定時間を要する。

次に、ＳＣＴを判定するスキルを身につけることにも時間と労力を要することがあげられる。前にも述べたとおり日本企業では、欧米企業とは異なりジョブに基づいた組織構造になっていない。人事部門の人材も数年後には他部門へローテーションで異動してしまうことが通例である。人事部門のある人物またはあるチーム全体がＳＣＴで判定する技能を高めたとしても、数年後には彼ら彼女らは他部門に異動してしまうため、組織としてのＳＣＴの活用度合いは一時的に下がらざるを得ない。組織としてＳＣＴを安定的に活用していくには、組織全体に継続した教育・訓練が必要であり、この点は企業として甘受しなければならない。

Hosei University Repository

b）人事部側の認識の問題

人間の特性は測定しにくいものであり、やはり本来は数字で表現できるものではない。しかし、おそらくは適性検査に限らず、社員個々人の成果や実績の判定等においても、測定できること、または数値で示されることだけを判断の基準として使用する傾向が見られる。応募者の採用審査や社員のポテンシャルを評価するにあたって、「ＳＣＴで多くの時間を費やすよりも、短時間に数値で結果が判定される試験で測定する方が簡便である」と単純に考え、結局は測定できるものだけで、正確に言えば人事部のスタッフが測定できると判断しているものだけが、応募者や社員に対する審査基準になってしまう危険性がある。

また、企業の人事部門は、組織の、そして組織を構成する人材の一回性という現実についてよく考える必要がある。適性検査は同一対象での追試ができないという点で、まさにアンチエイジングの化粧品と似ている。そして、まさにここにつけ込んで人事部門に売り込んでくる事業者が極めて多い。しかし、どの適性検査を信じて採用や幹部選抜を行っても、十年後に差が出るかどうかは誰にもわからない。使った十年と使わなかった十年を比較できない限り、そのようなことはわからないはずなのである。にもかかわらず「科学的データに基づいて」・「心理学に基づいて」・「脳科学に基づいて」等というセールス・コピーで示されると、人事部門の人間はグラリとなびいてしまいがちである。

これらの誘惑に負けてしまった場合、結果として、多くのよい人材が無視されることになってしまう可能性がある。これは実に危険な話であり、適性検査の活用にあたっては今後も注意を要するものであるし、いつも油断なく目を光らせていなければならない。

Hosei University Repository

（4）文献

《ＳＣＴのテスト用紙、手引、事例集》

佐野勝男・槇田仁　1960 ＳＣＴテスト用紙（成人用）　金子書房

佐野勝男・槇田仁　1961 ＳＣＴテスト用紙（中学生用）　金子書房

佐野勝男・槇田仁　1961 ＳＣＴテスト用紙（小学生用）　金子書房

佐野勝男・槇田仁・坂村裕美　1961 精研式文章完成法テスト解説 ー小・中学生用　金子書房

佐野勝男・槇田仁　1972 精研式文章完成法テスト解説 ー成人用改訂版　金子書房

槇田仁・小林ポオル・岩熊史朗　1997 文章完成法（ＳＣＴ）によるパーソナリティの診断 手引　金子書房

槇田仁（編著）伊藤隆一・岩熊史朗・菅野陽子・西村麻由美　1999　精研式文章完成法テスト（ＳＣＴ）新・事例集　金子書房

槇田パーソナリティ研究所　2000 自習用 精研式文章完成法 事例集（成人用）　槇田パーソナリティ研究所

槇田仁（編著）伊藤隆一・岩熊史朗・小林ポオル・菅野陽子・西村麻由美・櫃田紋子　2001 パーソナリティの診断 総説 手引　金子書房

伊藤隆一・伯井隆義・田邊満彦・櫃田紋子・菅野陽子・川島真・小林和久・神木直子・伊藤ひろみ・槇田仁　2004　ＳＣＴノート（1），　法政大学『小金井論集』、創刊号、pp. 85-108

伊藤隆一・田邊満彦・三浦有紀・小林和久・伊藤ひろみ　2005 ＳＣＴノート（2），法政大学『小金井論集』、第２号、pp.121-150

伊藤隆一・伊藤ひろみ、久保寺美佐・三枝将史・柴田崇浩・田邊満彦・三浦有紀　2006 ＳＣＴノート（3），法政大学『小金井論集』、第３号、pp.127-170

伊藤隆一・小林和久・松尾江奈・田名網尚・川島眞・藤原真一・林敦子・田邊満彦・久保寺美佐・三枝将史・伊藤ひろみ　2007 ＳＣＴノート（4），法政大学『小金井論集』、第４号、pp.107-138

《その他の文献》

馬場禮子　2003　投影法ーどう理解しどう使うかー：『臨床心理学』Vol.3, No.4（通巻 16 号），pp.447-453

石田英夫　1989　企業と人材　放送大学教育振興会

松原達哉（編著）　2004 心理テスト法入門　第４版　日本文化科学社

日本臨床心理士会（編）2003 臨床心理士に出会うには［第２版］　創元社

Hosei University Repository

*1 法政大学工学部教授、(1) 理事・運営責任者・研究員、臨床心理士
*2 浦和大学子ども学部講師、横浜医師会看護専門学校講師、(1) 副所長・研究員、臨床心理士
*3 企業人事担当次長、(2) 会員
*4 マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社取締役、法政大学理工学部講師、(2) 会員
*5 よこはま・自閉症支援室（横浜市発達障害者支援センター）、(1) 研究員、臨床心理士
*6 尚美学園大学総合政策学部教授、(1) 監事・研究員、産業カウンセラー
*7 埼玉県所沢児童相談所心理・家族支援担当主事、(1) 研究員、臨床心理士
*8 多摩市立教育センター相談室、(1) 監事・研究員、臨床心理士
*9 こころのクリニックカウンセラー、東京都スクールカウンセラー、(1) 研究員、臨床心理士
*10 企業人材育成担当課長、(2) 会員
*11 尚美学園大学総合政策学部・芸術情報学部講師、(2) 会長、臨床心理士

(1) ：横田パーソナリティ研究所
(2) ：ＳＣＴフォローアップ研修会

*12 謝辞：ご家族とＡ中学校長先生に事例報告の了解をいただき、感謝いたします。

*13 ここでは、経営管理に関する適切な処理または不適切な処理や、巧拙を例示しようとしているわけではない。従って、固有名称には仮称を用いている。

Hosei University Repository

2007年業績リスト

論文

1) 伊藤隆一ら、「ＳＣＴノート（4)」、法政大学「小金井論集」第4号、pp.107-138（2007年3月）

その他（雑文、講演等）

1) 伊藤隆一ら、「ＳＣＴ入門講座」、槇田パーソナリティ研究所（2007年6～9月）
2) 伊藤隆一ら、「ＳＣＴセミナー」、慶應義塾大学産業研究所（2007年10～12月）
3) 伊藤隆一、管理能力とＳＣＴ、ＪＱＡＡ研修会講演（総評会館）（2007年12月）